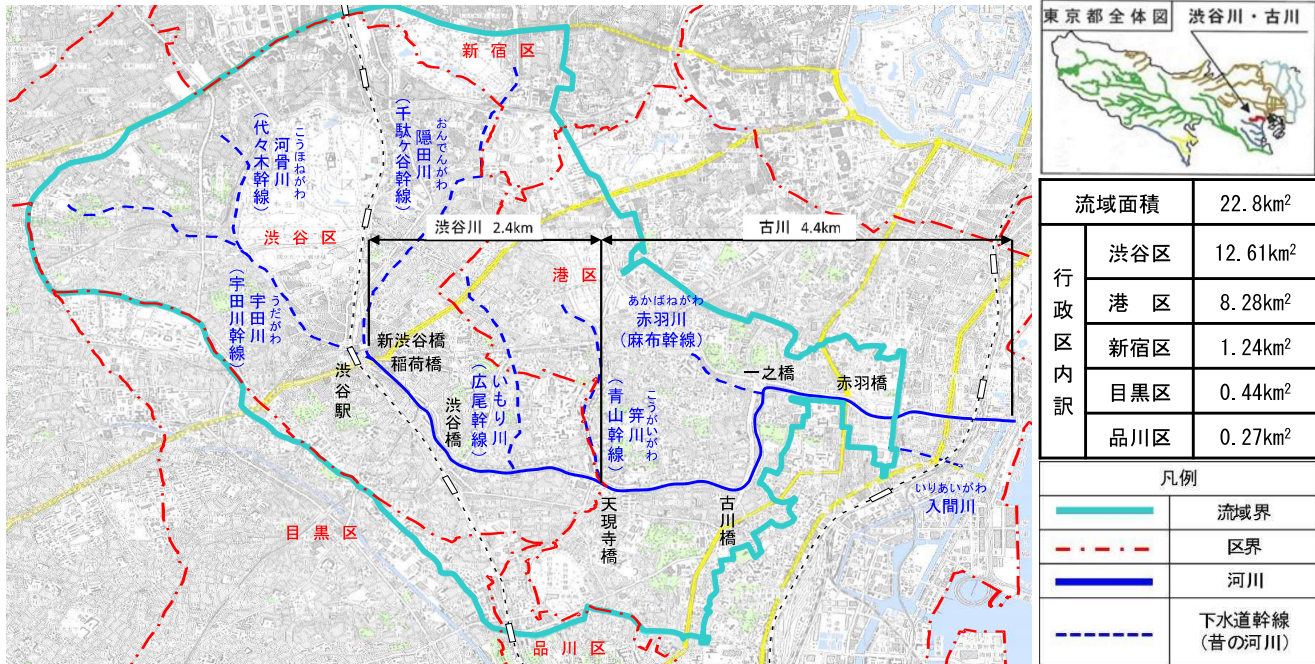


渋谷川・古川河川整備計画の概要

渋谷川・古川とは？

渋谷川・古川は、渋谷区内の新渋谷橋から天現寺橋間の2.4kmを渋谷川、港区内の天現寺橋から河口間の4.4kmを古川と呼んでいます。本川は、新渋谷橋～明治通り沿いに南東方向に流下し、恵比寿駅付近より東流し、古川橋で北上、一之橋で東流し東京湾に注ぐ、流路延長6.8km、流域面積22.8km²の二級河川です。



渋谷川 天現寺橋付近



古川 一之橋付近



古川 河口部

流域の特徴

渋谷川・古川流域は、東京の都心部に位置し比較的早い時期より市街化が進展していることから昭和初期には全ての区間で河川の整備が完了しています。

渋谷川より上流部では支川であった河骨川などが暗渠化され下水道幹線となっており、古川では首都高速道路により河川上空が覆われています。

平成11年の集中豪雨や平成16年の台風23号などによる浸水被害が発生していること、昭和初期に整備された護岸の老朽化が進んでいることから、調節池や護岸の整備が必要となっています。



護岸の老朽化(古川)



平成11年集中豪雨冠水痕跡(明治通り)



平成16年台風23号(古川橋)

河川整備の目標

渋谷川・古川では、治水面における安全性を確保しながら、都市のにぎわいと人々にうるおいとやすらぎをもたらす川に再生することを目指していきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、渋谷川（新渋谷橋～古川合流点）、古川（渋谷川合流点～河口）の区間で、計画期間はおおむね30年間を目標とします。

河川の整備

変更の背景

近年、都内では、現在の中小河川の整備水準である1時間あたり50ミリを超える豪雨が増加し、それに伴う水害が頻発していることからこれらの豪雨に対処していくための新たな治水対策が喫緊の課題となっています。

そのため、東京都では、「中小河川における都の整備方針～今後の治水対策～」(H24.11)において、目標整備水準を区部では時間最大75ミリの降雨（年超過確率1/20）に引き上げました。

渋谷川・古川の主な水害

年月日	原因	雨量観測所	時間最大雨量(mm/h)	床上・床下浸水	
				床下(棟)	床上(棟)
S33.9	狩野川台風	東京	76	(464,030)	
S57.11.30	集中豪雨	新宿	50	371	6
S62.7.25	集中豪雨	新宿	60	70	5
H11.8.29	集中豪雨	高浜	115	334	293
H12.7.3	集中豪雨	高浜	43	35	10
H12.7.4	集中豪雨	中央	84	161	60
H16.10.9	台風22号	中央	70	20	15
H16.10.20	台風23号	中央	31	32	14
H26.6.29	集中豪雨	駒場	50	25	73

治水

・・・洪水、高潮等による災害の防止又は軽減

渋谷川・古川は、1時間あたり50ミリまでの降雨は河道で対処することを基本に、これを超える降雨には新たな調節池の整備を行うことで、流域対策も含めて、1時間あたり75ミリの降雨に対応することを目指します。

また、昭和34年の伊勢湾台風と同規模の台風が、東京湾及び主要河川に対して最大の被害をもたらすコースを進んだ時に発生する高潮（A. P+4.6m）に対応することを目指します。



古川地下調節池内部



養老橋下流右岸取水口

環境

・・・生物の生息、生育の場となる河川環境の創出

生物の多様な生息・生育空間など良好な水環境の創出・保全に努めていきます。

また沿川との連携によるまちの顔となる河川、公園や緑地の活用によるまちとの一体となる河川を目指し、良好な河川空間環境の創出・保全に努めていきます。



親水護岸の実施例（港区立新広尾公園）



良好な景観創出イメージ